



# うさぎ組だより

2020年度 2月号 生麦保育園

昨年に比べ今年は寒い日が続いていますが、子どもたちは外に出て元気いっぱい身体を動かして遊んでいます。平仮名に興味を持ち始めている子どもたち。「かるたあそびやりたい」と言い、子どもたちが読み手を読んだり、イラストや文字を見て取るという遊びができるようになってきました。保育室に飾っている歌の歌詞も読んで覚える姿も見られるようになってきました。まだ読むことが苦手な子もいますが、楽しく遊んでいます。



## だるま制作

一月の制作はだるまを作りました。顔を描くところを画用紙にのりでつけました。のりを少しずつつけることを伝えると、「このくらい?」「少しにしたよ」とのりを取る量を調整して薄く伸ばしていくことができるようになりました。だるまの顔や体の模様をクレヨンを使うと目や鼻、口の位置を理解している姿やまつ毛や赤い頬を描いている子など、顔の特徴を細かく描いて一人一人個性のある、だるまができました。

## 鬼のお面制作

紙皿に、はさみで二か所切り込みを入れて折り目を付け鬼の角を作りました。折ったところを見て「前髪みたいだね」と茶色や黒で髪の毛のように色を塗っている子どもがいました。鬼の目にまつげを描いたり、にこにこ顔を描いたり、鬼の顔の色を「鬼は赤だから赤鬼にする」「カラフル鬼がいい」と個性豊かな怖くない可愛い鬼のお面ができました。

## ♪～♪ お楽しみ会練習 ♪～♪

今月からおたのしみ会に向けて練習が始まりました。初めてのおたのしみ会ということもあり、「劇遊び」ということを聞いてもイメージがわからない様子の子もたち。話の流れや誰に見せるのかを伝えると、少しずつやることを理解してきている姿が見られました。練習をする時に「桃太郎さん」「犬さん」と役の名前を保育者が言うと、「〇〇ちゃんもだよ」「〇〇君は犬だよ」と友だちの役を覚え教えている姿が見られました。初めてうたった替え歌をすぐに覚え、大きな声で歌える子や役になりきり、犬やキジ、さるのポーズをしてセリフを言う可愛い姿がありました。恥ずかしくて台詞を言えないという子もいますが、子どもたちが劇遊びを楽しんでいるように取り組んでいます。



気温が低くなる前日にタライやバケツの中に水を入れて氷を作りました。一度目は氷にならず…「なんでできなかったの?」「またつくれるかな?」とがっかりしていました。別の日にもう一度挑戦。氷ができると、「触りたい!」「どうやって作ったの?」「雪が降ったからできたの?」と興味津々な子どもたち。「冷たい～」「つるつるしてるよ」と冬ならではの自然に触れていました。